

文化財めぐり

発行日 平成17年11月4日
発行所 長崎市魚の町5-1
長崎市教育委員会
生涯学習部文化財課
TEL 829-1193

中島川石橋と崇福寺あたり



眼鏡橋 (国指定重要文化財)



崇福寺三門 (国指定重要文化財)

日時 平成17年11月5日(土) 13:30～16:00

コース 眼鏡橋～袋橋～皓臺寺～大音寺～崇福寺

主催 長崎市教育委員会

講師 文化財サポーター 2班 (後田 吾一郎、平川 辰興)

1. 中島川石橋群

今から約400年前にこの周辺の町並が形成され、寛永11年(1634)日本最初の石造アーチ橋とされる、眼鏡橋が架けられました。

それまでこの川には木の橋が主体でしたが、正保4年(1647)の大洪水で多くの橋が流されたことにより、元禄12年(1699)頃までに20の石橋が架けられていきました。当時石橋には、上流から第1橋、第2橋とか、伊勢町橋、酒屋町橋と呼ばれていましたが、この石橋群に現在の名称がつけられたのは、明治15年(1882)頃のことです。漢学者・西道仙が命名しました。

昭和35年(1960)眼鏡橋が国の重要文化財に、昭和46年(1971)阿弥陀橋、高麗橋、桃溪橋、大井手橋、編笠橋、古町橋、一覽橋、芋原橋、東新橋、袋橋の10橋が市有形文化財に、それぞれ指定され、中島川の石橋群として景観を誇っていましたが、昭和57年(1982)長崎大水害で崩壊、半壊し、昭和61年(1986)6つの橋が文化財の指定を解除されました。今は修理された眼鏡橋、阿弥陀橋、高麗橋、桃溪橋、袋橋が、中島川石橋群のなかの文化財として存続しております。

◎眼鏡橋(国指定重要文化財 昭和35年2月9日指定)

中島川の第10橋。寛永11年(1634)に興福寺2代住持唐僧黙子如定が架設したとされているが、寛文3年(1663)の大火で興福寺一山全焼の災に遭い、市中の諸文書と共に証すべき記録が消滅しているため、直接技術指導したのか、募財勧進のみを担当し工人技師が別にいたか定かでない。

またこの橋が正保4年(1647)の大洪水で崩壊。慶安元年(1648)、平戸好夢が重修したと伝えられているが、重修か修復か新架かにも説が分かっている。

◎袋橋(市指定有形文化財 昭和46年10月21日指定)

中島川の第11橋。架設年代は未詳。正保4年(1647)の大洪水で木廊橋が崩壊した後に架けられたとされ、形状からみて石橋群の中では眼鏡橋に次いで古い橋と推測される。

◎阿弥陀橋(市指定有形文化財 昭和46年10月21日指定)

中島川の第1橋。元禄3年(1690)園山善爾の寄付で架設されたもので、日本人の寄付で架けられた最初の石橋といわれる。園山善爾は泉州堺の出で、長崎に来て唐人との貿易で大いに利益を得た人物といわれている。

◎高麗橋(市指定有形文化財 昭和46年10月21日指定)

中島川の第2橋。承応元年(1652)長崎在住の中国人たちによって架けられました。古記録には「明人平江府等」とあり、これは現在の中国蘇州の地名であるといわれます。

◎桃溪橋(市指定有形文化財 昭和46年10月21日指定)

中島川の支流、同門(西山)川に位置します。延宝7年(1679)に卜意が在留唐人たちの寄付を集めて架けたもの。

◎そのほかの橋

大井手橋(元禄11、1698年架) 編笠橋(元禄12、1699年架) 古町橋(元禄10、1697年架) 一覽橋(明暦3、1657年架) 芋原橋(延宝9、1681年架) 東新橋(寛文13、1673年架) 魚市橋(元禄12、1699年架)

2. 聖壽山崇福寺

自分たちはキリシタンではないという証のため、長崎在住の中国福州の人たちが創設した長崎唐三寺の一つ(あと二つは興福寺、福濟寺)であり、禪宗・黄檗宗の仏教寺院です。寛永12年(1635)に初めて殿堂が建ったとされています。

この寺には建造物で国宝2棟、国指定重要文化財5棟あり、西日本で最高の文化財建造物の宝庫であり、そのほかにも仏像、扁額書、絵画など重要文化財や有形文化財が多数指定されています。

◎三門(国指定重要文化財 昭和25年8月29日指定)

寺院の外門であり、三門とは三個の門扉を有する樓門のことをいうとされる。

以前あった三門が火災風災で消滅倒壊した後、嘉永2年(1849)に建てられた。中国工匠が建てた中国建築の諸殿堂門のなかでも、龍宮門と呼ばれ、中国趣味の濃厚なこの門は、工匠大串五郎平の手によって建てられている。

◎第一峰門(国宝 昭和28年3月31日指定)

元禄8年(1695)寧波で材を切組み、この地で建造された。当初ここが山門であったが、延宝元年(1673)、この下段西向に新たに三門が建てられたので、二の門となった(別名、唐門、海天門、中門)。

軒先の構造組物である「四手先三葉栱」という複雑巧緻な詰組は他に例がなく、華南地方にも稀といわれている。

◎大雄宝殿(国宝 昭和28年3月31日指定)

釈迦(大雄)を本尊とする崇福寺の本堂であり、正保3年(1646)に上架建立された。本尊は釈迦如来坐像、脇侍は迦葉と阿難の立像、左右の側面には九体ずつの十八羅漢像(県指定有形文化財 昭和35年7月13日指定)が並んでいる。

◎護法堂(国指定重要文化財 昭和28年8月29日指定)

大雄宝殿と向かい合わせに建っており、これは黄檗寺院の特徴の一つである。

享保16年(1731)の建立で、向かって右は関羽を祀る関帝堂、左は韋駄天を祀る天王殿である。天井などに黄檗様式が見られ、柱礎石の彫刻模様も中国工匠の作と思われる。

◎媽祖堂(県指定史跡 昭和35年7月13日指定)

媽祖は海上の守護神であり、天后聖母、天妃、老媽、菩薩その他の呼び名があり、華南地方で尊崇される。唐船は船毎に媽祖像を祀り、入港中は唐寺の媽祖堂に奉安したので、媽祖堂は寺内でも重要度の高い建物であった。現在の建物は寛政6年(1794)再建された。

◎媽祖門(国指定重要文化財 昭和47年5月15日指定)

媽祖門の前にあり、大雄宝殿と方丈玄関をつなぐ渡り廊下を兼ねた、巧みな配置になっている。現在の門は文政10年(1827)再建されたものであり、媽祖は「ぼさ(菩薩)」ともいうので、「ぼさ門」とも呼ばれる。

MEMO